キリスト教たんぽぽ教会　主日礼拝宣教ガイド　2021/2/28

「希望に生きる共同体」
（ペテロの手紙第一4章7節～11節）

牧師：原　雅幸

序）散らされた民が造る、見えない「箱舟」

・ペテロの手紙第一は、宛先に「教会」という言葉がない。迫害にあって思うように集まれない事情があっただろう。←コロナ禍に似ている。
・目には見えない「霊の家（神殿）」を建て上げるという意味で、教会のことは意識されている。ノアの「箱舟」と「教会」は希望のしるしとして、重ねられて理解されている。

1）「万物の終わり」とは（７節前半）

・不健全な終末運動に惑わされないように！
・聖書で「終わり」とは「目標・ゴール」の意味。苦しんでいる人々に「終わり」は希望となる。破滅に向かうのが「終わりの時代（日）」ではない。十字架と復活によって、神の救いの計画が最終段階に達したという意味。
・私たちは必ず、完成された神の国にたどり着く希望をもっている。

2）希望に生きるための土台～祈り～（７節後半）

・行動の言葉は、そこから生まれるイメージに囚われやすいので注意。
・祈る（神と心を通わせること）ことなしに希望に生きることはできない。
・「心を整える」とは「健全な思考を働かせる」ことである。祈りなしに何かができるとは、高慢な考えである。自分に酔っていると祈らない。
・祈りなしに、神は助けを与えないことが多い。それは私たちを怠け者としないための愛のゆえである。「祈り、かつ働け」が合言葉
・今日が最後の日であっても悔いなく生きることと、長らく生きることに備えて生きることの両立は、祈りなくしてできるだろうか。

3）祈りから生まれる３つの「合い」

・「熱心に愛し合う」→「愛は多くの罪をおおう」とは、他者の罪、失敗、過ちを言いふらさないこと。ゴシップの集いは、希望のしるしにはなれない。ノアの息子たちの例
・「もてなし合う」…誰かの居場所をつくる。「聞くこと」が「もてなし」の中心。マルタとマリアの例。バランスが崩れると「不平」が出てくる。
・「仕え合う」…「それぞれが賜物を受けている」←これに反する言動に注意。「賜物」のイメージに囚われてはいけない。賜物の管理者であって所有者ではないことにも注意。皆が互いを建て上げるために語り、働く。

結）栄光と力はイエスの名による祈りを通して、教会に現わされる！

キリスト教たんぽぽ教会　こども礼拝ガイド　2021/2/28

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① あなたにとって、お祈りとは、どういうものですか。

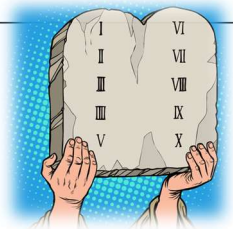
（　　）何かを食べる前にしないといけないもの
（　　）困った時、怖いとき、心配な時に、助けを呼ぶもの
（　　）いつも決まったことばを繰り返すもの
（　　）神様と心を通わせるためのもの
（　　）その他＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

② 聖書の言う「終わり」とは、どういうものですか。「終わりが近い」と聞いて、どう思いますか。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ もし、あと一週間しか生きられないとわかったら、あなたはどうしますか。逆に、長生きできるとわかったら、生き方は変わりますか？自分のいのちの終わりがわからない（神様は知っていますが、隠されています）のは、どうしてだと思いますか。

～教会クイズ（教理問答）～



Q040　十戒はわたしたちに何を教えてくれますか。

A040　第一に［　］［　］［　］［　］を愛すること、

第二に［　］［　］［　］［　］［　］を愛することです。

📖ヒント📖　申命記 6:5、レビ 19:18、マタイ 22:37-39、ルカ 10:25-37、ローマ 13:8-10、第一ヨハネ 4:19-21、ヤコブ 2:12-13